

轍をつなぐ（『下商新聞』、令和4年7月20日）

校長 久保田 力哉

コロナ禍で迎える3度目の新年度がスタートしました。感染拡大の収束には、もう少し時間が必要かもしれませんが、嘆いてばかりはいられません。昨年度この新聞でも書きましたように、この状況を「ポジティブ・シンキング」で、皆で力と知恵を合わせてコロナを克服していきたいと思います。

さて、本校では本年度めざす学校像を「就職も進学も強い 元気下商～未来に富める人づくり～」とし、スローガンを「夢を志へ」としています。そして、「未来に富める人づくり」のための4つの柱を、①「轍をつなぐ」（3年間を見通したキャリア教育の推進）、②「地域をつなぐ」（保護者・地域との連携強化と積極的な情報発信）、③「学びをつなぐ」（確かな学力・社会人基礎力の育成と資格取得の奨励）、④「心をつなぐ」（生徒一人ひとりに寄り添う 教育相談体制の充実）、としています。

今回は、一つ目の柱である「轍をつなぐ」について詳しく説明していきたいと思いません（ちなみに、キャリアとは、ラテン語で「轍」を意味します）。

今日、日本社会の様々な領域において構造的な変化が進行しており、とりわけ産業や経済の分野においては、その変容の度合いが著しく大きく、雇用形態の多様化・流動化にも直結しています。

まず始めに、これらの現在の社会情勢について、いくつかの見解を紹介します。

①読売新聞朝刊より（2019.1.4）

日本の人口…今後約百年かけて約1／3に減少→2110年…4,286万人と予測

②Society5.0

サイバー（仮想）空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにり、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

③産業構造の変化と社会の変化

技術革新による様々な職業の消滅→10年以内に世の中の半分の仕事が自動化され、人工知能が人間を上回る日が来るとも言われている。

④シンギュラリティ singularity（2045年問題）

人工知能が発達し、人間の知性を超えることによって、人間の生活に大きな変化が起こるという概念。人工知能の権威であるレイ・カーツワイル博士により提唱された

「未来予測の概念」でもある。

⑤産業構造の変化に伴う職業の変化

- ・マイケル・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）…「今後 10～20 年程度で、アメリカの総雇用者の約 47%の仕事が自動化されるリスクが高い。」
- ・キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学教授）…「2011 年度にアメリカの小学校に入学した子供たちの 65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。」
- ・アラン・ケイ氏（カリフォルニア大学ロサンゼルス校准教授）…「未来を予測する最善の方法は、それを発明することだ。」

このような予測がなされる中で、一人ひとりが「生きる力」を身に付け、明確な目的意識を持って日々の学校生活に取り組みながら、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高め、しっかりとした勤労観・職業観を形成し、激しい社会の変化の中で将来直面するであろう様々な課題に対応しつつ社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育の推進が強く求められています。

キャリア教育という用語が初めて登場したのは、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（平成 11 年 12 月）」においてでした。本答申では「学校教育と職業生活との接続」の改善を図るために、小学校段階から発達段階に応じてキャリア教育を実施する必要があると提言されました。

その後、様々なキャリア教育推進施策が展開されましたが、平成 18 年におよそ 60 年ぶりに改正された教育基本法においては、「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培う」ことが、義務教育の目的の一部に位置付けられました。翌年改正された学校教育法では、新たに設けられた義務教育の目標の一つとして「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」が定められ、小学校からの体系的なキャリア教育実践に対する法的根拠が整えられました。

また、平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申においても、新しい学習指導要領でのキャリア教育の充実が求められました。さらに、平成 20 年 7 月 1 日には「教育振興基本計画」が閣議決定され、今後 5 年間（平成 20～24 年度）に取り組むべき施策の一つとして「関係府省の連携により、キャリア教育を推進する」ことが挙げられ、平成 21 年 3 月にはそれらの内容に基づいて高等学校学習指導要領が改訂されました。

このように、近年、キャリア教育の充実は高等学校教育における喫緊の課題であると認識され、その推進と充実が強く求められているのです。

また、キャリア教育とは、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる「基礎的・汎用的能力」を育てることを通して、キャリア発達を促す教育を意味し、キャリアとは、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねを意味します。

そして、「基礎的・汎用的能力」は、①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力、の4つから構成されます。

本校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体的な能力を設定し、工夫された教育を通じて達成するため、「キャリア教育全体計画」と「キャリア教育年間指導計画」を作成し、本校学校WEBページにアップしていますので、詳細につきましては、そちらで御確認ください。

最後に、導入から3年目になる「キャリア・パスポート」について説明します。

まず、キャリア・パスポートの意義として、

- ①教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になる。横をつなぐ
 - ②小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めることに資する。縦をつなぐ
 - ③児童生徒にとっては自己理解を深めるためのものとなり、教師にとっては児童生徒理解を深めるためのものとなる。自己理解につなぐ・児童生徒理解につなぐ
- の3つが挙げられます。

つまり、キャリア・パスポートは、小学校から高等学校を通じて、キャリア形成を見通したり、振り返ったりして自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐものです。また、教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するものです。

本年度入学生から高等学校でも観点別学習状況評価が始まりましたが、これに馴染まず個人内評価の対象となるものについては、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、特に「学びに向かう力、人間性等」のうち「感性や思いやり」など生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要であるという認識の下、キャリア・パスポートを有効に活用していくことが重要で

す。

これからも、学校で学ぶことと社会との接続を意識したキャリア教育を実践するとともに、全教職員の共通理解の下、学校教育活動全体を通じた組織的・効果的なキャリア教育を推進してまいります。